

2003.3月 第10号

「f・wave」とは、

fは、family - 家族、
friend - 友、
freedom - 自由、
future - 未来、そして
f - 強く、を意味し、

waveは、波を表します。
f・WAVEは、社会環境の変化の
波を結面を通して伝え、男女が生き生き
と暮らせる未来をめざすコミュニ
ケーション誌です。

f・wave



特集2

時代を映し出す女性雑誌

特集1

言いたい放題 座談会



女と男 よりよく暮らすために

特集1

言いたい放題 座談会

今、社会の状況が大きく変わる中で個人や家族のあり方なども大きく変化しています。
女性や男性が自らの個性を發揮しながら、共に生き生きと充実した生活を送れる社会は、私たちみんなの目指すものです。
f・wave編集委員会では、男女共同参画について、本音に迫った座談会を開きました。

男の家事参加 「シヤガイモの皮が むけますか？」



大森 あきる野市の男女共同参画情報誌「f・wave」の編集委員を1年半くらいやっています。そこで女性たちがものすごくまじめに地位向上に向けて頑張っていることを知って、男性たちの考え方を聞いてみたいと思っていました。

谷口 昨年のあきる野市の「女と男のライフフォーラム」に連れ合いが参加しました。5歳と1歳半の子供がいます。今は子育て真っ最中です。

小野 私も、フォーラムの寸劇で亭主関白の役をやりましたね。皆に地で行ってるよと言われまして(笑)。私は昭和22年生まれで、共稼ぎの人も多くなっていました

が、親父の時代は妻が仕事に出るなんてことは夫として甲斐性がないという思いがあったようですね。
大森 そうですね。小さい頃から我々の世代は社会環境がそうでしたね。

中山 フォーラムに参加して少しは変わりましたか？

小野 なかなかそう簡単にはねえ。人それぞれいろいろな考えがあつていいと思いますよ。

藤村 谷口さんは、家事を分担していますか。

谷口 はい。料理も掃除もやります。掃除は得意ですが、料理は小さい頃からやっていないので苦手です。でも、男でもりんごやジャガイモの皮が剥けない人がいるのにはびっくりしますね。

小野 私は釣りが趣味なんで、自分で魚をおろしたりします。大根のかつらむきとかね。キャベツ入りチャーハンを作ったら家族に

も好評でした。

大森 すこいですね。料理は殆どしたことがありますね。カレーかインスタントラーメンくらいはできますがね。

小野 今、学校では家庭科は男



大森 忠さん
60代
(編集委員)



小野 裕さん
50代



谷口和憲さん
40代



藤村美映さん
30代
(編集委員)



中山佳代子さん
40代
(編集委員)

育児応援団！



あきる野市
子ども家庭支援センター

悩みを誰かに聞いてほしいとき、育児に困った時等に気軽に相談してみませんが。

子どもと家庭に関する相談
子育て支援サービスの調整
子育てグループ作りを応援
子育て講座の開催
子育て支援の情報提供
などを行っています。

場所 秋川ふれあいセンター 2階
利用できる人

あきる野市在住の18歳未満の子どもとその保護者・子育てに関わる人

開設日 月曜～金曜日
午前8時30分～正午
午後1時～午後5時15分

中山 男女いっしょです。私も息子には最低限、「ご飯の炊き方とか味噌汁の作り方は教えよう」と思っています。

父親も育児参加

—地域とも関わりを持つて—



中山 以前情報誌で、「育児をしない男を父親とは言わない」というポスターを作った厚生労働省の担当者にインタビューをした時に、「残業残業でとても育児などできない。」というのを聞きました。仕事と子育ての両立は厳しいと思いましたね。

谷口 子育ては本当に大変ですよ。保育園の送り迎え、熱が出れば医者通い。私は子供2人で精一杯なのに、3人育てている人はすごいなと思います。一日中子供と向かい合っていたら、育児ノイロゼになるのもわかるような気がします。

中山 私も、育児ノイロゼになりかけて、「結婚しなければよかった。」と、夫に泣いて当たったことがあります。そしたら、月一度日曜日に休みをくれました。

藤村 女性は、365日休みがないですね。主婦の休日というのを作ったらどうでしょうね。

小野 男性がもう少し家庭に目を向ければいいのかもしれないが、男性の育児休業が取りづらかったり、早く家に帰ると出世に影響するとかで、難しいですよ。

大森 正直言つて、子育ては大

女性も男性も共に向き合って



変なので逃げたいという気持ちがあったかもしれない。愚痴を妻から聞かされても、カラ返事ばかりして任せっきりでした。

藤村 もう少し気軽に地域の人も関わって子育てができればいいのしょうけど。

谷口 僕なんか、近所の大人から叱られながら育ったような気がします。

小野 今は地域との関わりが少なくなっていますね。昔は知らない子供でも叱らなければいけないときには、そこにいた大人が叱ったものです。「公園デビュー」なんて不思議ですよ。もっと自然に付き合っていけたらいいと思いますよ。

大森 昔は、地域で育てるという意識がありました。うるさく言われても、思いやりを感じましたね。

大森 昔と違い、最近は女性が主導権を發揮することが多いです。

小野 私もそう思うことがあります。何かを買おうにしても決定権が女性にありますね。特に若いカ

ップルは「男もしっかりしろ！」と思うことがありますよ。

藤村 女性たちが頑張つて変わってきているんだと思いますけど。

谷口 我が家では「家庭内民主主義」と言っているんですが、もめたときは2人で話し合つて調整しています。大切なことはお互いが自立するというところで、相手の言いなりになるってことじゃないですね。自立するための社会的なシステムも、例えば子育て支援とか、変えていく必要がありますね。

大森 リストラなどで、男性が元気がないような気がするんですが。

小野 男は、順応性がないのかもしれないですね。女性は、その場を切り抜けていく力がすぐれていると思います。

谷口 男も一人で背負うんじゃないかって、もっと肩の力を抜いて、困ったときこそ、妻と向き合つて正直に話せば、お互いにいい関係が築けるんじゃないかと思えますね。

中山・藤村 働き方も多様になって、女性も男性も新しい生き方が求められる時代になったのかもしれないですね。いろいろな面で家族が共に支えあうことが必要になってきたのかもしれないね。

し出す 女性雑誌

社会の様子や女性の生き方がよ
愛・仕事などまさに女性雑誌は

るとともに、現在の女性雑誌は
冊を取り上げ考えてみました。

女性雑誌を見てみると・・・ (平成15年発行雑誌から)

『anan』

特集記事は「運命力アップの完璧プログラム」
「美人の裏ワザ174」「新しいわたしになる」
などです。学生向けのファッション雑誌として
登場した創刊当時とは変わってきていますが、
巻頭ページにはでキュートな洋服や雑貨、アク
セサリーなどが毎回紹介され、読者の目を引き
つけています。また時々、占い特集を掲載したり、
男性が表紙を飾っています。

『クロワッサン』

特集記事は「今年も花の名所が呼んでいる」
「40代気になる病気のQ & A」「評判なので一
度は試してみたい化粧品」など日常生活を通し
て考える男の暮らし方・女の暮らし方がテーマ
です。クロワッサンは1970年代後半から
1980年代前半にかけて女性の自立や新しい生
き方を提唱し、「クロワッサン症候群」という
言葉まで生み出すほど女性たちに強い影響力を
与えた雑誌でした。しかし時代の流れとともに
内容が収納・雑貨・料理・健康などの暮らしの
アイデアを伝えるものになってきたのは興味深
い変遷です。

女性雑誌の歴史

年代

代表的な雑誌等

1950
年代

この時代、婦人雑誌は大きく分けて二つの流れ
があった。

「主婦の友」「主婦と生活」

日常生活的で実用的な視点にたち、生活の知恵
や情報を提供している。

「婦人画報」「婦人公論」

男女同権と女性の地位向上をめざし、女性の自
覚を強く求める内容になっている。

1960
年代

OLをターゲットにした新しいタイプの女性週刊
誌が人気。

「週刊女性」「女性セブン」

女性の社会進出が盛んになり、しとやかさや控
え目な言動より、自らの意見を言えるようにと意
識の変革を呼びかけている。

1970
年代

若い女性たちのファッションリーダー的存在と
して、ビジュアル雑誌が創刊。

「anan」「nonno」

学生向けで服飾誌の色合いが強く、アンノン族
と呼ばれるこれらの雑誌に影響を受けた若い女性
たちが出現。

1980
年代

自立する女性、新しい女性の生き方をテーマに
女性雑誌の創刊ラッシュ。

「クロワッサン」「MORE」

「クロワッサン症候群」という言葉が生まれる
程、自立した新しい女性の生き方が注目されるよ
うになる。

2000
年代

現在、書店に並べられている女性雑誌は多種多
様である。中学生に圧倒的人気の本、高校生、大
学生に支持される雑誌、30代から60代それぞ
れの年代の女性に読まれている雑誌がある。読者
が雑誌の内容に影響されるのではなく、自分のライ
フスタイルにあったものを選ぶ時代になってきた
のだろう。



時代を映し 女性雑誌

女性雑誌の歴史を見ると、その時代の
くわかります。ファッション・美容・恋
時代を映し、創りだしてきました。

特集2では女性雑誌の歴史をふりかえ
どのようなことを発信しているのか、数

今の女性

読者の声

●主婦としては興味深い家事や育児のこ
中心に、いい情報がないかなとついつい雑誌を開
きます。いまどきの入学式の服ってどんなの
かなとか、若く見せるメイクやダイエットなど
に興味があります。 Mさん(30歳代)

●ファッション雑誌はほとんど読まないけど、
女性週刊誌は広告文句につられてつい買ってし
まうことがあります。不思議なことに芸能人の
ゴシップ記事って興味がそそられるのです。
Fさん(20歳代)

●あまり流行を追わなくても生活できる毎日な
ので、ファッション関係の雑誌はあまり読みま
せん。でも、今私と同じ30代向けのファッショ
ン誌が注目されているようです。子育ても一段
落し、今度は自分を磨くことに目が向くのでし
ょうか。おしゃれも心もより素敵な女性にとの
努力は惜しんではいけないぞ!と自分に言い聞
かせています。 Aさん(30歳代)

●女性雑誌に求めることは斬新なもの、非日常
的な世界、眼で見て美しく癒されるものです。
雑誌を見ているだけで、海外旅行に行った気分
になれるなんて素敵ですよ。 Sさん(50歳代)

『婦人公論』

特集記事は「離婚が心をよぎるとき」「母は
強しと言うけれど」「幸運は自分で呼びこもう」
などです。創刊当時から女性の自覚を求める内
容ですが、昨今は毎号、「モード歳時記」とし
て洋服や小物などをシーズンに先駆けて紹介し
たり、「ビューティーレッスン」としてメイク
セットの紹介や着物に似合うヘアスタイルを提
案するコーナーなどおしゃれに関する記事も目
立ちます。小説やエッセイなどの連載も多く、
短歌や俳句の投稿も掲載し、幅広い読者層をタ
ーゲットにしているようです。

番外編

今、レディースコミックが主婦の間で大人気
のようです。あきる野市内の書店でも売れ筋本
のひとつということでした。小中学生向けであ
ったコミックですが、今や30歳~40歳代をタ
ーゲットにその数は数十種類にも及んでいます。
嫁姑問題・子育て・ご近所トラブル・男女関係
などが主なテーマです。人には言えなかった心
の声をコミックが代弁し、本音の部分を鋭く描
いていることが受けている要因のようです。



あきる野発・ひと

紙布織りの伝統を残したい

池田 明美さん（49）



あきる野市戸倉に紙の糸で布を織る人がいると聞き、訪ねてみました。自宅近くの染め織りのための工房には、様々な形の織り機や糸車が並んでいます。

池田明美さんは2年前にあきる野市に転居してきました。ここを選んだ理由を「染めをするための条件である水がきれいなことや日当たりが良いこと、そしてスキ、ヨモギ、ヤシャブシなど染めの素材がたくさあることです。」と言います。

紙布織りとは

紙布は和紙を「ヨリ」状の糸にして織り上げた布のことです。

紙布織りには楮の手漉き和紙を使います。（この和紙は楮の繊維

が縦に並ぶように特殊な漉き方をしたものです。）和紙の上下を残して細かく裁断し、少し湿らせてから平らな石の上で揉み、糸にしていきます。この手加減が難しく、最後の出来に影響するところですから。これを糸車で撚りをかけ、そのままかあるいは染色をして織ります。紙布織りの工程の9割が糸作りで織るのは1割だそうです。織りあがった紙布は木綿や紬の布のようになりかけています。水に通すほど丈夫になる特徴があるため、洗えば洗うほど強くなり、着れば着るほど柔らかくなります。洗濯機でも洗えるという驚きがありました。池田さんの作品は上着や着物、帯の他にタペストリーなどもあります。

紙布との出会い

池田さんが紙布を知ったのは、今から6年前、世田谷区の生涯学習で和紙造型講座を受講したときです。講師に「紙布を織ってみな

本の伝統工芸だと知ります。その後、博物館で調べた情報をもとに宮城県白石和紙工房を訪ね、何度も断わられながら粘り強く通って糸づくりを教えてもらうことができました。初めて紙布の着物に触れて、ガーゼのような柔らかさに驚き、紙布の虜になってしまったと言います。「この素晴らしい技術を残し、伝えていかなくてはならない。」と強く決心しました。

優れた伝統を伝えたい

白石和紙工房で糸作りを学んだ池田さんは、染織りの技術を基礎から学ぶために岡山県の倉敷本染手織研究所に入学しました。

卒業後は山形県米沢市や青梅市などで専門的な技術の習得を重ねていきました。

「紙布織りは手間がかかりますが、普段着る物を作りたいですね。日本全国でも紙布織りのできる人は少なく、高齢化が進んでいますので、後継者が育ってくれるといいですね。」と池田さんはためみない創作活動を続けています。

右側の和紙が中央のコヨリ状になり、左側の糸になる。



工房で和紙を広げる池田さん

池田さんの作品



ジェンダー・フリー
News

「あきる野市
障害者地域自立生活
支援センター」
が開設されます



障害を持つ方が地域の中で生き
生きと暮らしていけるように相
談・情報提供を行う支援センタ
ーが、平成15年4月にふれあいセン
ター内に開設されます。

「障害者地域自立支援センター」
では、年齢・性別・障害のあるな
しに関わりなく社会の構成員とし
て、自立した生活を送れるように
支援する各種の事業を行います。
地域の中で自立した生活を送っ
ている障害者の方が自ら相談にあ
たるピアカウンセリングも行いま
す。

事業内容

ホームヘルパー、デイサービス、
ショートステイ等の利用支援
その他障害を持った方が自立す
るための各種相談等

開設日

火曜日から土曜日（午前8時30分
から午後5時15分まで）
水曜日（午前10時30分から午後
7時15分まで）



街角スポット
10

有名な書家との
つながりも…？

大塚古墳（雨間）

市役所の南西約100mのここ
ろに宅地に囲まれた大塚公園があ
り、その中に大塚古墳があります。
木に覆われたこんもりとした小山
で、高さ約8m、方形で一辺が約
33mほどあると言われています。
大正15年に東京府（現東京都）
の旧跡に指定されましたが、現在
のところ古墳であることをはっきり
り証明するような遺構や遺物は発
見されていません。

そこで、昔から戦のときのろ
し台や物見台に使われたのではな
いかとが言われていますが、はっ
きりした根拠のあるものではありません。

南側には小さな鳥居があり、そ
こかららせん状になっている階段
を登っていくと、頂上に大きな石
碑と小さな祠があります。

石碑は明治39年、東秋留村時代



大塚古墳全景

に建立された日露戦争の慰霊碑で
す。名前を彫ったのは明治の三筆
とうたわれた日本書家史に残る日
下部東作（鳴鶴）（1838～1
922）です。東作は明治13年、
一万数千点に及ぶ碑版法帖を持ち
来日した清の揚守敬に師事し、の
ちに中国にわたり書法を学びまし
た。深い学識に裏付けされた東作
の書は一世を風靡し、その功績は
今なお高く評価されています。
謎の多い大塚古墳と共に、有名
な書家とあきる野市とのつながり
も謎で、そこがまた歴史のロマ
ンを掻き立てるのかもしれない。



本



『老婆は一日にしてならず』

吉永みち子 著
出版 東京書籍

シャンと老いるのは一大事業
だ！自助努力が必要な日本の高齢
社会に団塊世代が50歳を機に考え
た寿命の長い女が生きる術。笑え
て泣ける書き下ろしエッセイ。



『男も「更年期」が
わかると楽になる』

はらたいら 著
出版 主婦の友社

著者が突然襲われた心身の不調
の正体は「男の更年期」だった。
様々な症状の克服も含めて、男の
更年期を夫婦で乗り越えた赤裸々
な記録。

この本は、市内図書館で借りられます。

第7回 女と男のライフフォーラム 開催される



第一部の寸劇

平成14年11月30日(土)、あきる野ルピアホールで、「変わりゆく家族のかたち」女の常識・男の常識 いま、むかし」をテーマに、ライフフォーラムが開催されました。第一部は、寸劇「みんなの家はどうなっているの?」と題し、フォーラム実行委員により、お父さんも家事を手伝う太郎君の家と、家事は女の仕事という花子ちゃんの家を紹介。「あなたの家は、どちら派?」と会場の参加者にもマイクを向けました。



第二部のトークセッション

まれ育った時代と今の家庭環境の違いを比較し、子育て・夫婦・介護など人との関わり方について語りました。

斎藤さんは、「子育ては、押しつけやもてなしではなく、ただ寄り添う関係がいい。一方的ではなく、お互いに。」石丸さんは、「お年寄りにも、側にいることが求められる。地域の人々と共に生きる受け皿を作りたい。」最後に沖藤さんは、「一人一人が個性を持つことが大切。3歳児神話のような愛情の決めつけがある。常識にとらわれず、柔軟な発想によって、愛情は豊かに育ってゆく。」と結びました。

「エフ・ウェイブ」は公募の市民編集委員により編集されています。エフ・ウェイブ」は、市役所・公民館・図書館・生涯学習センター・ファインプラザなど、公共施設等に置いてあります。

編集後記

女性雑誌の種類の多さに驚き! 氾濫するマスメディアの世界では自分に合った情報を探すのも大変。とりあえずゴーイング マイウェイです。 石山亜由美

時代の流れをいち早くつかみ、成長してきた雑誌たち。 f・waveも負けてはいられません。 大串 睦

情熱をもって打ち込む姿を取材し、元気をもらいました。 大本浩子

出逢いに感謝。 大森 忠

ふだん聞くことができない他人の家庭の「内情」がわかり、有意義な座談会でした。 中山佳代子

みんなみーんな、私の宝物。 三者三様、十人十色。そんな言葉がピッタリな座談会。楽しかったです。 藤村美映

新しいものを見てみよう、触れてみようという気持ちを思い出した一年でした。 松田さなえ

「これだ」と思うものに突き進むひたむきさ。強さを感じつつ、蛇行も悪くないかなと...。 三重野由美子

表紙 / 市川美加

この情報誌に関するご意見・ご感想、また、誌面で取り上げてほしいテーマなどを下記までお寄せ下さい。

Information

インフォメーション

あきる野ハローワーク
求人情報コーナー オープン!!



1月20日(月)、あきる野ハローワーク3階にオープンしました。別館3階にオープンしました。当コーナーでは、求人自己検索

パソコンにより、都内2万件の情報の中からスピーディーに求人情報が検索できます。他に、職業相談・紹介と、事業主への雇用にかかると、求人の受け付けを行います。

近くに来たハローワークをぜひご利用ください。

開庁日 月曜～金曜日(祝日除く)
時間 午前9時～午後4時30分
(正午から午後1時を除く)
問合せ ハローワーク青梅
(TEL 0428 24 8609)